



2025(令和7)

4/19 (土)

徳島大学生物資源産業学部 教育教授
佐藤 征弥

徳島の巨樹の話 —歴史・伝承・保護について—

講演内容：

巨樹は、その大きさと魁偉な姿、長命さから、古くから崇拝の対象とされ、時には祟りをなす存在でした。今日でも癒しのパワースポットとして、巨樹を訪ねる人が多くいます。自然豊かな徳島県には、誇るべき巨樹もまた多く存在し、国指定の天然記念物の巨樹は4本あり、そのうち「加茂の大クス」は、巨樹としては全国に30本しかない特別天然記念物になっています。本講演では徳島県の巨樹の歴史や伝承について紹介するとともに、その価値や保護について考えてみたいと思います。

5/17 (土)

徳島県立総合高等学校 とくしま学博士
渡辺 美知子

油屋 熊八の世界 —油屋将軍と呼ばれていた—

講演内容：

油屋熊八(1863-1953)は、別府観光の生みの親と呼ばれた人物です。米問屋の息子として誕生し、30歳で大阪の米相場師となり巨万の富を築きます。しかし、経済不況のため無一文となり、単身アメリカへ渡ります。帰国後、アメリカで学んだビジネスノウハウを別府で実行します。熊八は、別府で「(湯)湯・観光・名所」を実現、修業した全てを注ぎ込みます。熊八がモットーとした言葉「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」を世に知らせる事になりました。

バス会社設立、バスガイド、ホテル経営など、実業家・油屋熊八は、現在の大谷翔平と同じ、二刀流、三刀流のアイデアマンです。熊八の自由奔放に生きた人生と功績についてお話しします。

6/21 (土)

徳島大学 名誉教授
平井 松午

吉野川流域の文化的景観 —藍作と竹林・搔寄堤・高石垣家屋—

講演内容：

「四国三郎」とも呼ばれる吉野川の流量は全国最大規模で洪水も多発しましたが、下流部に肥沃な沖積平野(徳島平野)を形成しました。そうした中で、人びとは吉野川と共生する工夫を重ねて、特色ある生業・生活を育んできました。その代表例が藍作で、阿波藍は近世後期～明治期には全国における一大ブランドを確立しました。かつて吉野川流域に卓越した竹林や搔寄堤は単に洪水被害を軽減するだけでなく、流域住民が生業としてきた藍作にも不可欠なものでした。講座では、吉野川の地理的特性と流域の歴史・景観について再考します。

7/19 (土)

鳴門教育大学情報基盤センター 所長・教授
曾根 直人

サイバーセキュリティの世界 —脅威とその対策—

講演内容：

インターネットは世界を結ぶネットワークであり、現代社会の重要なインフラとして実世界と密接に結びついたサイバー空間を形作っています。サイバー空間では、場所や時間にとらわれずにコミュニケーションや買い物ができるなど非常に便利な反面、さまざまな脅威も存在しています。

本講座では、サイバー空間に潜む脅威とその対策について紹介します。また、安全で安心なインターネット利用のための具体的な方法について、一緒に考えていきましょう。

8/16 (土)

徳島大学 名誉教授
英 崇夫

日本刀から学ぶ材料の強さ

講演内容：

「折れず、曲がらず、よく切れる」で代表される日本刀には、刀身全体の姿と形、鏡のように光る切れ刃と刃文模様など一目見て心を研ぎ澄まされるものがあります。また、強さに関して、私たちの祖先が何の科学的知識もないまま、試行錯誤を重ねて現代に通じる優れた方法を完成させたことに驚嘆させられます。

本講座では、日本古来の製鉄法であるたたら技術、刀匠たちによって受け継がれてきた作刀法を紐解くことにより、日本刀の強さの秘密、また日本が誇る工業材料の強さの基礎を学んでいただくことを願っています。

9/20 (土)

徳島県立総合高等学校 とくしま学博士
阿部 敏男

「戦国初の革新児」・「華麗なる天下人」三好長慶 —戦国の世に『理世安民』を掲げるって、どんな人物?—

講演内容：

三好長慶12歳は、脇城修築約半年で畿内復帰。主君仇敵細川晴元は、三好元長を恐れ自ら引き起こした一向一揆で元長を攻め自害に追い込む。しかし晴元は一揆を制御できず一向一揆との仲裁を一時仲違ひの実弟阿波守護細川氏之を通じ、結果的に長慶が和睦の仲介人としての役目を、天文2年(1533)6月20日にこの難しい和睦仲裁を成就したことは歴史事実である。「本福寺明宗跡書」によれば、千熊丸12歳が独りで和睦を成立させたとは明記されていない。これを機会に強大な権力を持つ仇敵細川晴元に恭順し辛抱に辛抱を重ね実力を蓄え1549年三好政権を樹立。管領晴元は將軍と共に近江に逃亡。敵討ちに17年間を費やし、1553年長慶は胸中に秘めた『理世安民』を掲げ、「平和な民衆のための政治」を貫く12歳の颯爽たる若者が居た。その若者について紹介する。